

2015年度 関西学院 聖和幼稚園 学校評価を終えて

関西学院では、幼稚園から大学院まで連なる総合学園である強みを活かし、お互いに連携をとりながら整合性のとれた学校評価を実施しています。併設する学校の教員に、専門的な視点からの意見を聞くことで、第三者評価と学校関係者評価の両方の性格を併せ持つ「第三者評価／学校関係者評価」を導入しています。この度、聖和幼稚園の学校評価が関西学院評価推進委員会において承認されましたので、公表いたします。

聖和幼稚園は、120年を超える歴史の中で子どもを中心に考えたキリスト教主義による幼児教育を貫いてきました。そこで、2015年度の学校評価におきましても「キリスト教主義教育」を評価項目に選定し、また、文部科学省の「幼稚園における学校評価ガイドライン」に沿った項目としては、「教育課程・指導」、「保健管理」、「教育環境整備」を、重点項目には「保護者との連携」を設定しました。評価の実施に当たっては、各項目について保護者・教諭にアンケート調査を行い、初等部校長、教育学部教員、聖和短期大学教員、評価情報分析室副室長による保育実践・施設の参観、意見を聞くことによって客観性を確保しました。アンケートの回収率は、保護者68.5% (159/232)、教諭100% (19/19) となっております。

今年度は、「教育理念・使命・目標」「評価項目」を説明し、「具体的な取組の状況とその効果に対する評価」を行い、「今後の方策」を示し、自己点検・評価としました。また、初等部校長、教育学部教員、聖和短期大学教員、評価情報分析室副室長の評価者に普段の保育を参観していただき、ありのままの聖和幼稚園の教育を知っていただき、その方々のご意見も合わせて聖和幼稚園の学校評価としてまとめています。

関西学院聖和幼稚園は学校評価を通じて、自らその課題を探り、その課題に向き合い、誠実に対応し、より質の高い保育を目指していきます。

今後も一人ひとりの子どもたちが愛されていると感じられるキリスト教保育の研鑽に努め、保護者・学校関係者・地域の皆様と共に連携しながら、より良い幼児教育の実践を行いたいと考えております。今後どうぞよろしく願いいたします。

2016年3月11日
関西学院 聖和幼稚園
園長 赤木 敏之

学校評価

教育理念・使命・目標

建学の精神－「幼な子をキリストへ」
 聖書における子ども観（一人ひとりの子どもたちは神様に愛された存在）をもってキリスト教主義による教育・保育を124年間継承している。

「幼な子をキリストへ」「キリスト教精神に基づいた保育」「キリスト教主義の保育」という理念は、名称・所在地が変わっても一貫した流れがある。

聖和幼稚園は、下記の三つの教育方針を柱にしてキリスト教保育を行っている。

- ・子ども一人ひとりが、イエス・キリストによって示された神様の愛に気づき、自らがかけがえのない存在であることを知り、喜びと感謝をもって過ごす。
- ・お互いの個性や多様性を認め合い、自主性、創造性を発揮して共に育ち合う。
- ・神様の創造された自然の中で心と体を存分に使って遊び、健康的な心身を育み、豊かな感性を培う。

幼児期の「今」しかできないことを、子どもたち一人ひとりが、「喜びをもって」、「自主的に」、友だちや教諭と「共に」経験できるように、遊びを中心とした保育を日々送っている。子どもたちの「心の育ち」を大切にしている。

2015年度の評価項目

- ・キリスト教主義教育
- ・教育課程・指導
- ・保健管理
- ・教育環境整備
- ・保護者との連携

2015年度の評価項目とテーマ、自己評価、目標、具体的な取組の状況とその効果に対する評価、今後の方策

評価項目 【テーマ】	キリスト教主義教育 【キリスト教保育の根幹である愛情を感じられる教育の実践】	自己評価	A
目標	○教職員間でキリスト教保育の理念を共有する。 ○一人ひとりの園児の発達・個性を把握して、子どもたちが愛されていると感じられる保育をする。		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	キリスト教保育の根幹である愛情を感じられる教育の実践においては、神様から命・個性を与えられている子どもたち一人ひとりを大事に守り育てていくキリスト教保育を行っている。教諭も日々、キリスト教保育の理念をもって実践に努めている。 今年度も「神様、イエス様に愛された子どもたち一人ひとりに『まなざし』を向けて保育する」ことを特に気をつけながら、キリスト教主義教育の大切な柱の一つである「子どもたち一人ひとりのあるがままを受け止める」視点で、①「できる」「できない」に価値を置いた教育観ではなく ②「よくここまで育った」と観る教育観で ③「達成感」「充実感」を味わえる心を支える援助を行っている。 建学の精神を実践するために、具体的には、目の前にいる今を生きている子どもたちに、未来を生きる子どもたちにとって、「何が大切なのか」「何が必要なのか」を教職員で熟考し、キリスト教保育を実践している。		

	<p>保育の中で大切にしている礼拝は、土曜日、平日に行っている。日々の保育でも形式にこだわらず（話し合いの中での祈り、食前の祈りなどを含め）礼拝を行っている。また、子どもたちは教諭、友だちと共に、喜びを持って祈ることを大切にしている。</p> <p>聖和幼稚園では、毎朝、教職員が心を合わせ祈りの時を持って保育、業務を始めている。そして、保育活動を担う教諭は、教師会でのキリスト教保育の勉強会、また、キリスト教保育の研修会にも参加している。特に、今年度は夏期休暇中に教諭全員でキリスト教保育連盟主催の全国夏期研修会に3日間参加した。</p> <p>保護者に対しては、入園前の新入園児保護者会、新年度当初の保護者会総会でキリスト教保育についての話をしている。また、クリスマス前には、「クリスマス準備保護者会」と称する礼拝・講演会を行っている。その他のキリスト教に関する行事（母の日、花の日、収穫感謝礼拝など）は園通信にて、由来、意味、大切にしていることなどを伝えている。</p> <p>「キリスト教保育の理念の共有」について、教諭のアンケートは100%肯定的に、キリスト教保育の根幹である「一人ひとりを大切にし、愛情を感じられる教育の実践」についても100%肯定的に回答している。教諭は、キリスト教保育の理念を共有し、一人ひとりの子どもをしっかりと受け止めて保育していることの自負が数値にも表れている。</p> <p>保護者は「キリスト教保育の考え方の共有」では99.3%の保護者が肯定的に回答し「キリスト教保育で大切にしていること」を理解していただいていると推測できる。また、「子ども一人ひとりを受け止めて保育をしている」では96.2%の保護者が肯定的に回答しており、キリスト教保育の実践も評価できると推測できる。</p>
<p>今後の方策</p>	<p>キリスト教主義教育に関しては、今年度も教諭、保護者共に高い評価をしている。しかし、この現状に慢心してはいけないと考えている。今を生きている、そして未来を生きていく子どもたちにとって、「何が大切なのか」「何が必要なのか」を熟考し、「子どもにとってどうなのか」の視点でキリスト教主義教育を実践していきたい。</p> <p>「キリスト教保育の理念の共有」は、今まで同様、教諭に対しては、キリスト教保育の理念の共有ができるように、キリスト教保育の研修会に参加すること、日常の勤務においてもキリスト教文化に触れる機会を増やす。また、保護者に関しては、毎年新たな気持ちで、講演会、園通信等からキリスト教保育の大切にしていることを伝えるようにしていく。</p> <p>「一人ひとり園児の発達・個性を把握して、子どもたちが愛されていると感じられる保育をする」について、子どもたちが「自分は愛されている」と実感できるように保育をしていく。そのために、日々の保育の中で、一人ひとりに目を向け、あるがままを受け止め、①「できる」「できない」に価値を置いた教育観ではなく ②「よくここまで育った」と観る教育観で ③「達成感」「充実感」を味わえる心を支える保育をおこなっているかどうか、省察し、自己研鑽をしていく。</p>

<p>評価項目 【テーマ】</p>	<p>教育課程・指導 【各領域に主体的に取り組む姿勢を培う援助】</p>	<p>自己評価</p>	<p>A</p>
<p>目標</p>	<p>○園児が自律的な精神を養い、何事においても意欲的に取り組めるように援助する。</p> <p>○環境（人的・物的）を通しての保育を実践する。</p>		
<p>具体的な取組の状況とその効果に対する評価</p>	<p>聖和幼稚園はキリスト教保育を柱にして教育課程を作成し指導計画を立てている。そして、月案、週案、日々の子どもの育ちを把握しながら子どもの姿に応じて日案を作成し、保育実践をしている。週案では一週間を振り返り子ども一人ひとり</p>		

	<p>の子どもの姿を記録して、省察している。</p> <p>昨年度に引き続き、「子どもにとってどうなのか」の視点で、教育課程、指導計画の見直しを行っている。</p> <p>教師会では園児一人ひとりの育ちについて、日々のカリキュラムについて、行事等について話し合い、行事に関しては、「子どもたちにとってどうなのか」「なぜ、その行事を行うのか」等、理念、内容の再検討から話し合っている。また、教諭同士は、子どもの育ち、援助について丁寧に話し合っている。</p> <p>保護者には、月の保育目標、活動内容を、毎月発行する園通信にて伝えている。また、facebookにて日常の保育の様子を紹介している。</p> <p>聖和幼稚園の保育内容は一人ひとりのあるがままを受け止め、育ちを大事に考え、遊びを中心とした、ゆったりとした保育計画を立てている。そして、外遊びを重要と考えており、その機会と環境を整えている。</p> <p>幼児教育は、環境による教育といわれる。教諭は、人的（自分自身）・物的環境について、日々、子どもの姿と自分自身の保育のあり方を省察している。</p> <p>そのことが功を奏して、3学期の子どもたちの育ちからは、一人ひとりの発達に応じて、自主的、意欲的に活動する姿が確認できた。また、教諭のアンケート結果からも保育理念から保育計画を立案し、子どもの意欲、主体性を育む保育内容を実践していることが分かる。</p> <p>物的環境においては、教諭が意識を持ち、教材・園庭環境研究を行っている。そのことが保育環境の充実につながっていると考えられる。</p> <p>アンケート結果からも98.8%の保護者が肯定的に回答している。</p>
<p>今後の方策</p>	<p>来年度も「今を生きている子どもたち、未来を生きる子どもたちにとって、大切なこと、必要なこと」を熟考し、「子どもにとってどうなのか」の視点で、教育課程、指導計画の見直しを継続する。</p> <p>保護者、教諭共に高い評価をしていることから、現在行っていることを継続し、さらに子どもを見る目、理解する力、関わる力を深めていく姿勢が必要である。</p> <p>保育の質、専門性を高めるために、来年度も研修会、研究会、学会への参加を積極的に行いたい。来年度も教諭が学会での発表を計画している。教諭一人ひとりが研鑽し、保育の専門性を高め、園全体の保育の質を高めていきたいと考えている。</p>

<p>評価項目 【テーマ】</p>	<p>保健管理 【日常の健康管理、疾病予防の取り組み】</p>	<p>自己評価</p>	<p>A</p>
<p>目標</p>	<p>○園児一人ひとりの健康状態を把握し、また、疾病予防の指導を行う。</p> <p>○教諭の対応できない怪我、疾病等については園医、学校歯科医に相談して最善の対応をする。</p> <p>○園児一人ひとりのアレルギーやそれに伴う症状(アナフィラキシー等)を把握し、幼稚園でできる範囲の対応をする。</p>		
<p>具体的な取組の状況とその効果に対する評価</p>	<p>園児一人ひとりの健康状態は、年度毎に保護者より預かった「園児生活調査表」で把握している。必要に応じて、配慮・対応を具体的に保護者より聞く。また、園児一人ひとりの健康状態の情報は、クラス担任だけではなく、幼稚園の全教職員で共有している。</p> <p>毎日の園児の健康状態については、必要がある場合は登園時に保護者がクラス担任に伝えている。また、体調の変化が見られたときには、教諭が検温をしている。保育中、健康状態で気になった場合は、降園時に保護者に伝えている。</p> <p>おやつ、愛餐会のカレー、クリスマスの会食、キャンプの食事、餅つきをして食べる際のしょうゆ、きなこ、あんこ、のり等の原材料を開示している。そして、代替、除去等、幼稚園でできる範囲の対応を行った。特に、愛餐会のカレーでは、ア</p>		

	<p>レルゲンフリー27 品目不使用のカレー粉を使用し、全員が同じカレーを食べることができた。</p> <p>食物アレルギー等で食事制限のある園児は、毎月「おやつ表」にて保護者に日々のおやつを知らせ、一人ひとりに応じて適切な対応が行われるようにしている（幼稚園で用意したおやつを食べる、食べない、家から持参する等）。おやつは、できるだけ全園児が食べられるように、添加物、刺激物のできるだけ少ないものを選ぶ配慮をしている。</p> <p>年度当初に、全教諭が園医より「エピペン」使用の講習会を受けている。また、「アレルギーショック症状を起こした際の緊急時対応」について、具体的な指導を受けている。</p> <p>以上のような取り組みから、アンケート結果において、園児の心身の健康状態を把握して保育をしていることは、教諭 100%、保護者 98.1%が肯定的に回答している。園医、学校歯科医との連携は、教諭 100%、保護者 92.4%が肯定的に回答している。また、園児一人ひとりのアレルギー対応は、今の段階で、幼稚園でできる範囲のことはしている。アンケートは教諭 100%、保護者 99.4%が肯定的に回答している。そのことから、高い評価は得ていると推測できる。</p>
<p>今後の方策</p>	<p>園児の健康状態を把握して保育をするためには、保護者との連携が大切である。また、園児の体調の変化、過ごし方が通常と違う等に敏感に気を配る。</p> <p>アレルギーは、子ども一人ひとり違う。子どもの成長と共に変化する場合もある。そして、医者によっても考え方がさまざまである。それに伴い、対応も違ってくる。園児の主治医のアレルギーの考え方、治療方法などにできるだけ対応したいと考えるが、健康に関することであるので、幼稚園だけで判断できないこともある。</p> <p>今後も園医、関西学院保健館と相談し、幼稚園で対応できること、できないこと、対応してよいこと、してはいけないことを明確にして、対応する場合は、細心の注意をもって対応していくことにしている。</p> <p>来年度も園医によるアレルギーに関する講習会を計画し、また、園医から最新の情報を得ていく。</p>

<p>評価項目 【テーマ】</p>	<p>教育環境整備 【保育環境整備、教育研究環境整備】</p>	<p>自己評価</p>	<p>A</p>
<p>目標</p>	<p>○法人と連携した施設整備の安全、維持管理、充実のための点検、整備、拡充を行う。</p> <p>○法人と連携した子どもの育ちに適した遊具、教材の充実を行う。</p> <p>○法人と連携した教諭の教育、研究のための環境の充実を行う。</p>		
<p>具体的な取組の状況とその効果に対する評価</p>	<p>○設備整備</p> <p>聖和幼稚園は、園児の興味、関心、適切な育ちに応じて活動や体験ができるように考え、設備整備を行っている。今年度は、法人の総務・施設管理課と相談し、トランポリン遊具のネットの張替え、増設を行った。また、園舎の南側部分と木部箇所の外装工事を行い（北側部分は昨年度実施）、2年間かけて、園舎全体の外装工事が終了した。</p> <p>年度当初に、小屋、雲梯、丸太の壁などに教諭が柿渋を塗り、園庭、小屋の下に真砂土を補充した。</p> <p>日々、教諭が施設設備、遊具等の点検を行い、聖和キャンパス事務室と連絡をとり、随時修理を行っている。</p> <p>以上のような取り組みから、適切な教育環境を整えている、環境整備の点検、整備を適切に行っていると全員の教諭が肯定的な回答をしている。そして 98.1%の保護者が適切な教育環境を整えていると、また、98.1%の保護者が教育環境設備の</p>		

	<p>点検、整備を適切に行っていると肯定的な回答をしており、聖和幼稚園の教育環境の充実、教育環境設備の点検、整備を適切に行っていると聖和幼稚園への信頼が数値に表れていると推測できる。</p> <p>○遊具・教材の充実</p> <p>聖和幼稚園は、日々遊具・教材の研究をしている。そして、園児の育ちに応じて必要である遊具・教材は教師会で検討し購入している。また、遊具が壊れ、使用不可になった場合も随時買い替えている。教材が不足した場合は、随時補充している。特に、今年度は、学年ごとに教諭が検討し、2、3学期に各学年約90冊の絵本を購入した。</p> <p>教諭が、日々意識を持ち遊具・教材研究していることが、肯定的な回答結果として現れている。そして、99.4%の保護者が肯定的な回答をしており、教諭の日々の努力の結果と推測できる。</p> <p>○教諭の教育・研究環境の充実</p> <p>教諭は、幼稚園で検討し必要と思われる研修に、また、教諭自身の研究テーマにそって研修に参加している。また、日本保育学会、日本乳幼児保育学会に参加、発表も行った。夏期休暇中に教諭全員でキリスト教保育連盟主催の全国夏期研修会に3日間参加し、キリスト教保育の大切に行っていることを共有できた。</p> <p>アンケート結果は、94.8%の教諭が肯定的に回答している。</p>
<p>今後の方策</p>	<p>○設備整備</p> <p>今後も法人との連携を円滑に行い、施設整備の安全、維持管理、充実のために点検、整備、拡充を行う。</p> <p>○遊具・教材の充実</p> <p>今後も教諭の遊具・教材研究を継続し、園児の発達に応じた遊具・教材を充実させる。</p> <p>○教諭の教育・研究環境の充実</p> <p>教諭の研修会の参加、研究への取り組みができるように、教諭の教育・研究環境の更なる充実を目指し、保育の質向上に努力する。</p>

<p>評価項目 【テーマ】</p>	<p>保護者との連携 【保護者との連携】(重点)</p>	<p>自己評価</p>	<p>A</p>
<p>目標</p>	<p>○園の教育方針について理解を深め、園児の心身の健全な発達を願って園と家庭との連携を図る。</p>		
<p>具体的な取組の状況とその効果に対する評価</p>	<p>聖和幼稚園は、登降園時保護者が送迎をすることになっているので、教諭と保護者が直接話し合いの場が持てるようになっている(登園時は連絡程度)。教諭は、この場で保育中の子どもの様子を伝えたり、家庭での様子を聞いたり、保護者と子育て、教育に関するコミュニケーションをとっている。この連携は、良い子育て、教育の鍵となる事柄として重要視している。特に、今年度は、教諭が意識して保護者に声をかけるように心がけた。</p> <p>子どもの育ちを理解してもらうための保育参観日は学期ごとに1回ずつ行っている。また、保育参観日以外にも個別対応し参観の機会を設けている。</p> <p>家庭訪問は年度当初に行い、幼稚園の様子、家庭での様子等を話し合っている。クラス懇談会は1学期に行っている。個人懇談会は2学期と3学期に行っている。</p> <p>保護者会総会で園長が園生活のスライド・ビデオを見せながら「園生活において大切にしたいこと」の話を行った。また、外部から講師を招き「家庭教育に求められる子育てのポイント ～お母さん、これだけは忘れないで!～」をテーマに保護者会講演会を行った。</p> <p>以上のようなことから、教諭は、保護者と日々の登園、降園時に、クラス・個人</p>		

	懇談で子どもの育ちについて具体的な話をしていること等からアンケートでは全員の教諭が肯定的に回答している。また、保護者のアンケートも 96.9%が肯定的に回答しており連携はできていると推測できるが、保護者との連携は子どもの育ちに関して非常に重要な要素であり、できていると思ってしまうといけない要素である。
今後の方策	保護者との連携は子どもの育ちに関して非常に重要な要素であり、できていると思ってしまうといけない要素であり、努力の継続が必要である。今後も慢心することなく現在行っていることを省察し、保護者と良い連携ができるようにしていく。また、子育てに関する保護者会講演会も計画する。

(自己評価)

A+=テーマに対する目標を達成した。

A=テーマに対する目標を概ね達成した。

B=テーマに対する目標の達成に向けた計画や方策などを実行しているが、達成にはまだ時間がかかる。

C=テーマに対する目標の達成に向けた計画や方策などを実行していない。

総合評価

今回の学校評価「キリスト教主義教育」「教育課程・指導」「保健管理」「教育環境整備」「保護者との連携」の全ての項目において保護者、教諭から高い評価を得ている。

保護者のアンケート「幼稚園の教育には満足している」の項目において、99.3%の肯定的な回答を得ている。本園の大切にしている「子どもたちが愛情を感じ、喜びと感謝をもって日々を歩むキリスト教保育の実践」「一人ひとりの子どもたちを大切に育てる」ことが理解されていると推測できる。

聖和幼稚園はキリスト教保育を「子どもにとってどうなのか」の視点で保育内容、子どもへのかかわりを省察している。教諭の専門性・質を高め、聖和幼稚園の保育の質の向上を目指している。そのことが評価につながっていると推測できる。

キリスト教保育を実践する上で、「子どもたち一人ひとり」の観点は大切である。保健管理においては、一人ひとりの健康状態を把握して保育をすること、また、園児のアレルギー対応も聖和幼稚園のできる範囲で一人ひとりに対応してきたことが評価につながっていると推測できる。

幼稚園は環境による教育である。教育環境の充実が重要である。教育環境を整備、充実してきたことが評価につながっていると推測できる。

子どもの育ちに関して保護者との連携は非常に重要で、不可欠である。よりよい方向を考えて実行していくことが必要である。神様から与えられた命、個性を与えられた子どもたち一人ひとりを、まわりにいる保護者、教諭が連携して守り育てていく。

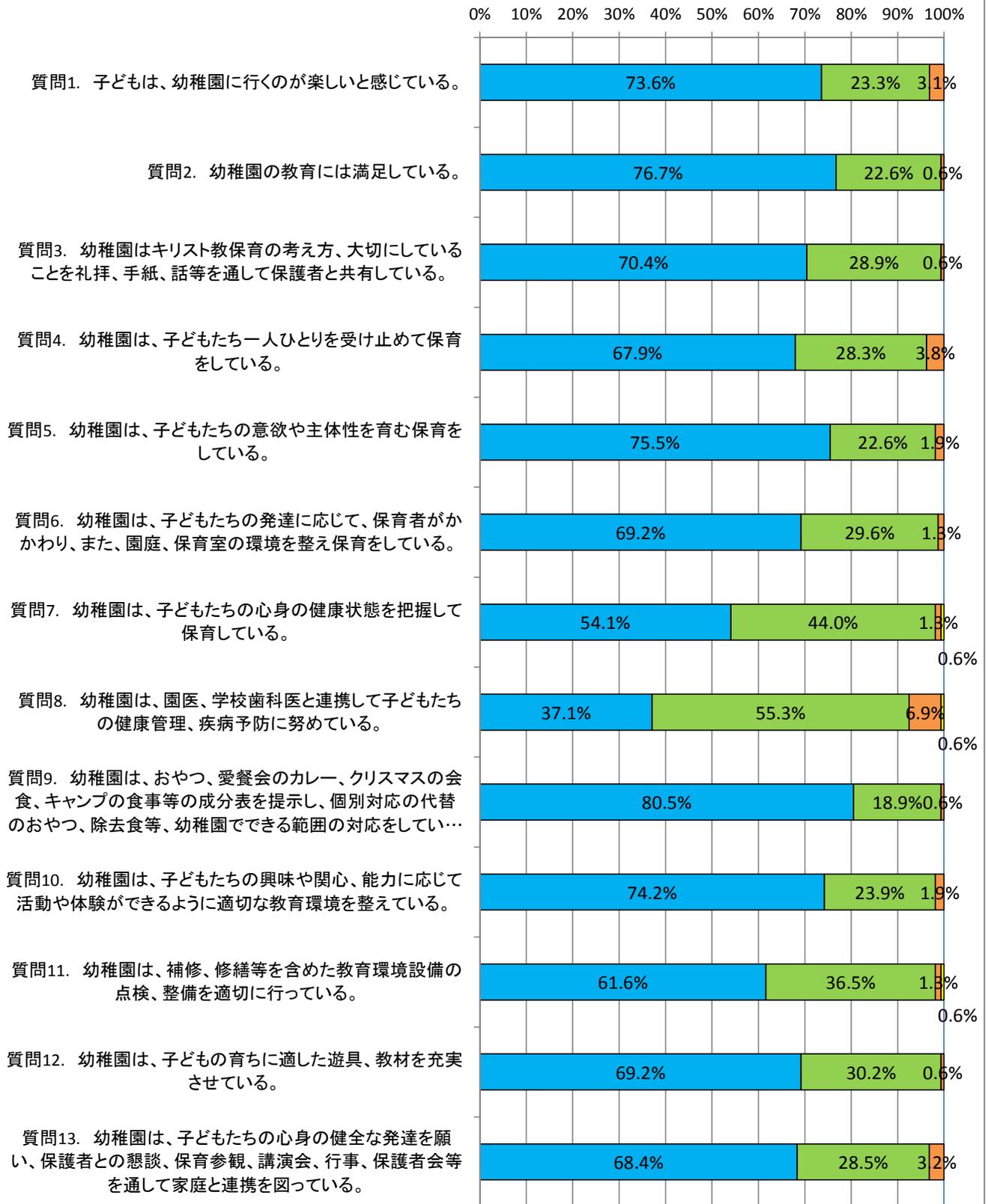
2015年度の評価をふまえて2016年度に予定している評価項目、テーマ等

- ・キリスト教主義教育
- ・教育課程・指導
- ・保健管理
- ・教育環境整備
- ・保護者との連携

第三者評価／学校関係者評価

- ・キリスト教主義教育の理念に基づき、一人ひとりのありのままを受け止め、遊びを中心としたゆったりとしたカリキュラムの中で、自己肯定感や生きる力が育成されていることが、授業参観を通じて実感されます。今後もさらに保育の質の向上に努め、保護者との強い絆をつくりながら質の高い実践を継続していかれることを期待します。
- ・学校評価アンケートの分析について、「どちらかといえばそう思う」を肯定的意見として評価されていますが、必ずしもそのように受け止められないさまざまな意見も含まれているように感じます。保護者の意見にさらに耳を傾け、日々の実践に対する改善に努力していただきたいと思えます。
- ・アンケート結果より、5つの評価項目すべてにおいて、全教諭が一致して実践し、保護者からも支持を得ていることが分かります。
- ・キリスト教主義教育の項目で「教職員間でキリスト教保育の理念を共有する」という目標が掲げられ、教師会でキリスト教保育についての勉強会が行われているようですが、理念の共有が具体的な保育実践へと繋がっていくために、特に新任教諭を視野に、園内研修の内容・方法をさらに検討していかれることを期待いたします。
- ・保護者との連携については、登降園時、保育参観、家庭訪問、個人懇談会など様々な機会を捉え、教諭が積極的に声をかける努力をしておられることは評価できます。子育てに悩む保護者が相談しやすい環境・体制がさらに整えられることを期待いたします。
- ・聖和幼稚園の「キリスト教主義に基づく保育」の理念を教職員全員が共有し、朝の祈祷会から保育を始め、「未来を見据えて今の子どもにとって必要なこと、大切なこと」を計画、実践、省察、研究会等で追究し続け、「感謝、喜びをもって、自主的に考えて行動する」、「違いを認め合い共に育ち合う」等を目標とした細やかなチーム保育実践の成果が、日々の生活、諸行事において「子どもたちの心の育ち」の姿として現れていることが、大変高く評価できます。
今後も、一人ひとりの目に見えない内面への共感・受容、理解を深めるために、教諭間での意見交換を通した子ども理解への努力を期待いたします。
- ・聖和幼稚園独自に考案された園庭の「遊び」環境整備のために、法人の各部署の連携、協力体制によって、さらに安全性、機能性をもった木製遊具が完成し、日々子どもたちの活発で創造的な遊びが展開されており、年々、豊かな園庭の環境として改善、進展していることも高く評価できます。
- ・幼稚園実習の学生たちが、幼児期の園生活の「環境構成・活動・教諭の援助」の保育実践と理論との関係における優れた「保育の専門性」を学ぶ貴重な保育現場となっています。
また、毎日の「預かり保育」「園庭開放」は、保育後の子どもの心理面、発達を考慮した保育カリキュラムにより、子どもの育ちへの支援、保護者支援の在り方を十分に考慮した省察に基づく実践として順調に進展しています。
- ・保健管理の項目では、「一人ひとりを尊重する」保育方針に即して、保護者との連携を密に一人ひとりの子どもの健康への理解、多様化しているアレルギーへの対応が継続されていますが、週に4回の各家庭の手作り弁当も子どもの健康に影響する要因になるため、「食育」推進の観点から、保護者対象に専門家による講演会、指導助言などの計画、実践も望まれます。
- ・訪れるたびに、充実感が伝わります。子どもたちの表情やしぐさは豊かで、「一人ひとりを深く受け止め導く」キリスト教主義教育が生活の中に息づいています。伝統に裏打ちされた理念のもと、めざすべき保育指針が「成すべきこと」として教職員に行き渡っている表れでしょう。
- ・聖和幼稚園には保護者も加え、心地よき一体感が感じられます。朝夕のフェイス・ツー・フェイスでの受け渡し、発達に応じたかわり、アレルギー対応、預かり保育など生活全体を互いに共有する力こそが、この良さを生み出していると思えます。
- ・次年度、名称が『関西学院幼稚園』となります。キリスト教主義教育、人間教育、一貫教育。
さらに、未来を拓く連携の中で、聖和幼稚園の培ってきた良さを失うことなく「変わるべきもの」と「変わらないもの」を吟味し深化させることが求められるのでしよう。

2015年度 学校評価アンケート集計結果
 幼稚園・保護者（回収率 68.5% 159人/232人中）

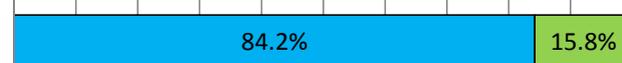


■ 回答番号1: 強く思う ■ 回答番号2: どちらかといえば思う ■ 回答番号3: あまりそう思わない ■ 回答番号4: まったくそう思わない

2015年度 学校評価アンケート集計結果
 幼稚園・教諭（回収率 100% 19人/19人中）

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

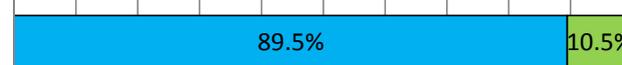
質問1. 教員は、礼拝、教師会、研修を通してキリスト教保育の理念を共有している。



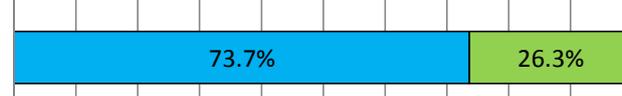
質問2. 幼稚園は、園児一人ひとりの発達・個性を把握し、愛情を注いで保育をしている。



質問3. 幼稚園は、園児一人ひとりの心に添って興味・関心を高め、何事にも自主的・意欲的になるように保育をしている。



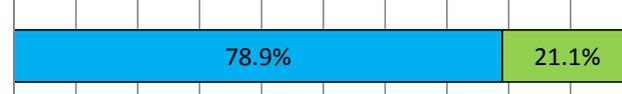
質問4. 幼稚園は、園児一人ひとりの発達に応じて、保育者がかかわり、また、園庭、保育室の環境を整え保育をしている。



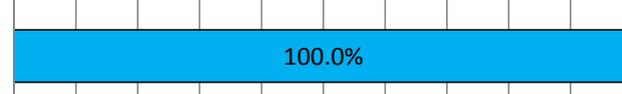
質問5. 幼稚園は、園児一人ひとりの心身の健康状態を把握して保育をしている。



質問6. 幼稚園は、園児一人ひとりの心身の健康状態を把握する中で、その対応について専門の知識を持つ園医、学校歯科医と連携して対応している。



質問7. 幼稚園は、園児一人ひとりの食物アレルギー、アナフィラキシーを把握し、代替のおやつ、除去食等、幼稚園でできる範囲の対応をしている。



質問8. 幼稚園は、園児一人ひとりの興味や関心、能力に応じて活動や体験ができるように適切な教育環境を整えている。



質問9. 幼稚園は、補修、修繕等を含めた教育環境設備の点検、整備を適切に行っている。



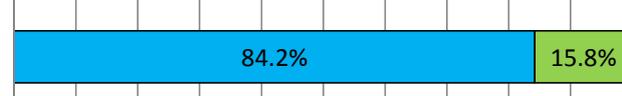
質問10. 幼稚園は、園児の育ちに適した遊具、教材を充実させている。



質問11. 幼稚園は、保育者の教育、研究のため、環境(学会・研修会への参加も含む)、設備を充実させている。



質問12. 幼稚園は、園児一人ひとりの心身の健全な発達を願い、保護者との懇談、保育参観、講演会、行事、保護者会等を通して家庭と連携を図っている。



■ 回答番号1: 強く思う ■ 回答番号2: どちらかといえば思う ■ 回答番号3: あまりそう思わない ■ 回答番号4: まったくそう思わない